

文化情報誌

たわわ *2018 No. 104*

「たわわ」というタイトルには「小さな情報がたくさん集まって多くの実を結ぶように」という期待が込められています。

色を決めて描くように自分で音を決めていく



ヴァイオリニスト 江藤有希さん



大磯・海見えるホールでのコンサートの模様

バイオリンを始めたのは、四歳の時です。

父はフルート奏者、母はピアノの先生だったんですが、うちにあったレコードの中からバイオリン演奏を聴いてやりたいたいと言いだしたようです。

最初の頃はとにかく夢中でバイオリンを弾いていて、とにかく練習がしたくてついには幼稚園を中退したりしました。小学生になったら友達と遊ぶことが楽しくなってそんな熱も冷めたようですが、今まで自分からやめたいと言ったことはありません。

けれど、音大には行けませんでした。

音大を目指していた当時、父は演奏から退いてフルートの修理と教える仕事をしていたのですが、二浪して入れなかったらあきらめなさい、と言われました。結局、二浪してもだめで、二十歳の頃からは父のもとでフルートの修理をしていました。

修理をしていてもバイオリンにはずっと未練があって、音大に入れなかったコンプレックスもあって、ある日父から「ずっと見てきたけれど修理を義務でやっているようにしか見えない」と言われてしまいました。職人の仕事は朝から晩まで仕事のことを考えているようじゃないといけなのにとでもそうは見えない、と。かなり図星でした。

当時はまだ二十代。残り少ない二十代のうちに自分がどう生きていくかを考えて社会に出たほうがよいのではと父に言われて、ショックでした。アルバイトをしつつ今後の人生を考えようと思っていた矢先に音楽教室の生徒を引き継いでもらいたいというお話をいただいて、急に十人の生徒を受け持つことになりました。

そのあたりから、ライブを一緒にやらないかと誘われたりして、2000年の年明けに初めてショーロを弾くことになりました。

ショーロというのはブラジルの音楽の一ジャンルで、触れるうちに自分にとっての表現方法の一つになっていくと感じました。仕事になるならない、ではなく、自分の一生の勉強

としてこの音楽をやりたいと思ったんです。

2004年にブラジルに行って勉強をしたのですが、そこで出会ったギタリストに「楽譜を渡されてそれを正確に演奏するのがいいミュージシャン、ここはこの色にしようという風に、自分で色を決めて塗っていきるのがいいアーティスト。あなたはいいアーティストになるように頑張らなさい」と言われたのが、今の私の指針になっています。

ブラジルで様々な音楽家の活動を見てから、作曲に対して気負うところも少なくなりました。作曲法を勉強していなくても気にならなくなりました。

ブラジルの音楽はおしゃべりしているような弾き方だな、と思っていて、奏法を模索しました。ギターと一緒に演奏するときは、ギターはバイオリンよりも音量が小さいので、また奏法も変えたりして。

ある時、演奏を聴いた父がわざわざ電話をくれて、「ようやくプロのスタートラインに立った感じだな」と言ってもらいました。父が亡くなる前の年のことです。

ずっと東京に住んでいたのですが、結婚を機に平塚に来ました。ここは東京と比べて、空も広くて伸びやかな感じがします。

お気に入りのカフェで知り合ったお客さんがライブに来てくれたり、画家の方と出会えたり、他の業種の方と知り合って繋がっていくのは東京ではあまりなかったことです。東京は色々なものが多いので、埋もれていたのかもしれない。

私は、カフェやライブハウスと

か、お客さんとの距離が近いところで演奏することが多いです。生の音の良さを色々なところに届けに行きたいと思っていて、美術館や映画館のように、本来音楽を聴くための場所じゃないところで生の音楽が聴けると、身近に感じてもらえるんじゃないかと感じています。

お客さんも演奏家も他にないシチュエーションでの演奏会は特別な思い出になると思うんです。

アコースティックに近くなればなるほど、生演奏にかなうものはないです。演奏家もお客さんも知らない者同士で緊張している中、たった一音でふっと力が解けていく瞬間があったりするの、ライブならではの感覚ですね。

多くの人に生演奏に触れてほしいし、これからも届けたいと思っています。



大磯のギャラリー・今古今で武井好之氏の前でのライブ



倉吉のお寺のお堂でのライブ

【プロフィール】

江藤有希 yuki etoh



袖ヶ浜にて撮影

柔らかく美しい音色が心に深くしみわたる、稀有な存在のヴァイオリニスト。インスト・ユニット「コーコーヤ」のメンバーとしても、多くの作品を制作。'00年よりショーロ（ブラジル器楽音楽）の演奏を始め、'04ブラジルに渡りリオの代表的演奏家と共演、レコーディングに参加。'05年より「コーコーヤ」に参加。'11年より江藤作「ボンボヤージュ！」がJ-WAVEのラジオ番組「サウージ！サウダージ」エンディング・テーマとして放送中。

アルゼンチン・タンゴの奏者としても活動し、小松亮太らと共演。シンガーとの共演も多く、EPO、ハシケン、桑江知子、鈴木重子、工藤江里菜、Saigenji、純名里沙などの演奏サポート、バレエのための作品、J-POP作品の演奏・アレンジなど幅広いジャンルで活躍。'16年、初のソロアルバム「hue」をリリース。収録曲がテレビやラジオ番組のBGMとして多数起用される。笹子重治（ギター）、橋本歩（チェロ）とのトリオでの活動をひろげ、'17年に秋篠宮殿下・妃殿下ご臨席のイベントにて御前演奏。ホールコンサート開催、全国13ヶ所までツアーを行うなど、生の音楽を届けるよう活動中。'18年、2ndアルバムをリリース予定。

ひらつかの文化財を知ろう⑮

把手付き片口鍋の謎

7世紀の後半から、日本は中国の制度を取り入れた律令制の時代を迎えます。これと同時に、新潟県付近に城柵（軍事的な防御施設）を設けるなど、本格的な東北経営に乗り出します。当時東北地方は、律令政府から蝦夷などと呼ばれる人々の住む文明の外の地方とされていました。特に、奈良から平安時代にかけての774～811年頃は三十八年戦争ともいわれる、対蝦夷戦争の激化した時代でした。この後も蝦夷と政府との対立の火種はくすぶり続け、878年には、出羽国（秋田県）で秋田城を焼く大反乱が発生しました。（元慶の乱）

さて、北金目台地に位置する大久保遺跡の3号竪穴住居跡から、9・10世紀頃の土器類と一緒に、鉄製の把手の付いた片口鍋が出土しました。当初は、出土例もほとんどないため、新しい時代のものとも考えられましたが、研究・調査を重ねていくうちに本例を含めて全国的に4例があるのみの貴重な資料であると分かりました。古代の城柵である秋田城・多賀城などからも出土していることから、対蝦夷戦争に従軍する兵士の携行する鍋と考えられるものとなりました。また、近年、茨城県古河市の川戸台遺跡か

ら、大久保遺跡の鍋と類似する、9世紀後半代の大量の鍋の鋳型が発掘され、これらが、元慶の乱に対応するための軍事に係る鍋である可能性が強くなりました。

こうしたことから、平成29年度に把手付き片口鍋を含めた3号竪穴住居跡出土遺物を一括して平塚市指定重要文化財に指定しました。

なお、元慶の乱では、武蔵・下総・常陸などから兵士が徴用され、相模からは冬用の綿を出羽国へ送っている記録があります。相模国府に近い、北金目の地から遠く秋田県へ出向いた人々が持ち帰った鍋かもしれません。



把手付き片口鍋



新指定文化財

◆遺跡調査・研究発表会◆

8月末（日程未定）／平塚市博物館

平成29年度平塚市指定重要文化財の公開を行います。

（但し、鍋は傷みが激しいため通常非公開です。）

リトアニアだより(4)



アリートゥス市庁舎前の文化広場



アリートゥス市中心街の公園

アリートゥス市は、リトアニア共和国南部に位置する人口約5万人の都市です。街には雄大な自然、文化的な環境、居心地の良いカフェやレストランなど新しいスポットが豊富で、ファミリー層にとって、魅力的でとても住みやすい街です。



アリートゥス音楽学校

楽療法をともに学べるようになりました。

また、2005年には、EU諸国及びアメリカと協力し、異文化間の対話、音楽療法、障害者の差別撤廃、民族芸術の普及の分野などの国際プロジェクトに取り組み始めました。

アリートゥス音楽学校のグループの一つである"Rytato"【リタト】は、リトアニア・ツィター（弦楽器）、パンパイプ、ホーンパイプ、バイオリンの生徒で編成されています。リタトは、リトアニア音楽祭、リトアニア国民栄誉大会の常連であり、モンテネグロ、セルビア、ポーランド、ギリシャなど海外での演奏経験も豊富です。

第68回湘南ひらつか七夕まつりのイベントで、演奏を披露する予定になっています。

文 アリートゥス音楽学校プロジェクトマネージャー
ライマ・ジュラヴァ



音楽学校の生徒たち



Rytato リタト

足もとの星座たち 第4回

「足もとの星座たち」、第4回は、いままさに見頃を迎えているうしかい座とおとめ座を紹介しましょう。どちらも「春の大曲線」から探すことができます。

第3回で紹介した北斗七星（おおぐま座の一部）の柄の部分のカーブをそのまま伸ばしていくとオレンジ色に輝く明るい星を見つけることができます。うしかい座の1等星アークトゥルスです。さらに伸ばしていくと今度は白く輝く明るい星が見つかります。おとめ座の1等星スピカです。この北斗七星の柄からアークトゥルス、スピカとたどってできるカーブが「春の大曲線」です。

うしかい座はアークトゥルスを結び目とするネクタイのような形をしています。この“うしかい”の正体ははっきりしていません。ギリシャ神話に登場する天を支える巨人族の一人アトラスであるという説や、同じくギリシャ神話に登場するカリスト（おおぐま座）とゼウスの子アルカスという説などがあります。

1等星のアークトゥルスは全天で4番目に明るい恒星です。麦を刈り入れる頃になると日没後に天頂に輝いて見えることから、「麦星」「麦熟れ星」「麦刈星」などと日本では呼ばれていました。アークトゥルスのオレンジ色の輝きが、実った麦の穂の色を想像させたのかもしれません。

おとめ座の形は複雑で、明るい星も多くないので平塚の空でたどるのは容易ではありません。スピカとアークトゥルスの間あたり、という大雑把な捉え方でいいと思います。おとめ座は農業の女神デーメーテル、または正義の女神アストライアの姿だといわれています。スピカはデーメーテルが持つ“麦の穂”のところに輝く1等星で、その名も「とがったもの」という意味があります。日本ではアークトゥルスとスピカを「春の夫婦星」と呼んできましたが、偶然にもともに“麦”を表す名がついた星でもあったのです。なお、おとめ座あたりの星空は天の川から離れた場所にあり、天の川の星たちに邪魔されず宇宙を遠くまで見通すことができます。そのため宇宙のはるか彼方に浮かぶ銀河の姿をたくさん見ることができます。特におとめの頭の近くに見える「おとめ座銀河団」は2000個ほどの銀河が集まっています。いわばおとめ座は、遠くの宇宙に向けて開いた窓といえるでしょう。

うしかい座の星座絵タイルはシャインロードとエビス通りの交差点付近に、おとめ座の星座絵タイルはその南の交差点付近に設置されています。うしかい座の星座絵タイルは4つしかなく駅から離れていますが、ぜひ探してみてください。



春の大曲線とおおぐま座、うしかい座、おとめ座



うしかい座の星座絵タイル



おとめ座の星座絵タイル



おとめ座銀河団で見る光のシミはすべて星の大集団である銀河です。(提供:NASA/ESA)

(平塚市博物館学芸員)

平塚市文化振興基金に御協力を

平塚市文化振興基金は、市民文化の振興を図るために活用されています。基金に御協力くださる方は、平塚市文化・交流課まで御一報ください。

(0463-32-2235)

基金に御寄附いただいた方々

(H30.5.30現在)

しんわ本人自治会 (3月29日)

金魚絵師 深堀隆介展 平成しんちう屋



《金魚酒 伽琳》2016年

会期 2018年7月7日～9月2日

会場 平塚市美術館

観覧料 一般900円、高大生500円

透明樹脂にアクリル絵具で金魚を描く若手現代美術家・深堀隆介さんの公立美術館で初めての本格的な個展。絵画でありながら立体的な躍動感にあふれ、不思議な美しさを湛えた深堀金魚をお楽しみください。

お問い合わせ先

平塚市美術館 (0463-35-2111)

発行 平塚市文化・交流課

〒254-0045 平塚市見附町 15-1 平塚市民センター内 電話 0463-32-2235 FAX 0463-31-6466

平成30年(2018年)6月15日発行 e-mail bunkoh@city.hiratsuka.kanagawa.jp ホームページ <http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/bunka/index.htm>

再生紙を使用しています